

実写ドラマ（30分1クール想定）

風魔の小次郎 2

銀の一族篇

構想ノート

2013. 10. 2 版

大岡俊彦

各界で絶賛の実写風小次、セカンドシーズンは、どうあるべきか？

華悪崇は、どう絡むのか？ 聖剣戦争は？

この問いに、ある種の答えを示したものがこれである。

まだ、構想中だが、一応の形にしておく。ここからの変化も、十分ありうる。

風魔の小次郎の持つ、剛刀・風林火山。

飛鳥武蔵の持つ、長刀・黄金剣。

風魔と夜叉の戦いで、伝説の十聖剣のうち二振りが使われたという噂は、各地の忍びに瞬く間に広まった。

小次郎はいまや、銀の一族が待つ、より大きなうねりの中にいる…！！

(概要)

伝説の十聖剣をめぐる、風魔一族、飛騨（ひだ）一族、雑賀衆（さいかしゅう）、九龍（くりゅう）一族、鬼面党（きめんとう）が入り乱れて闘う。「風魔は聖剣を使い、これまで拮抗を保ってきた忍び 103 流の頂点に立つことを狙っている」という流言が、各流派に疑心暗鬼を生じさせているのだ。まず風魔にけしかけてきたのは飛騨一族。率いる若きリーダー、龍王院狂須（りゅうおういんクルス）は、飛鳥武蔵と同じ「飛龍覇皇剣」の使い手だった…。

雑賀衆の雑賀孫一（さいか・まごいち）、九龍一族の九龍鉄拐（くりゅう・てっかい）、鬼面党の鬼坊主（おにぼうず、いずれもオリジナルキャラクター）は、それぞれに思惑がある。風魔と開戦した飛騨につくべきか。最強と名高い風魔につくべきか。そして鬼面党に接触する謎の美女。彼女は名を、魔矢と名乗る。

一方行方不明のままだった飛鳥武蔵の前に、銀色の瞳を持つサイキック集団が現れる。武蔵は再び闘いの渦に入るつもりはない。彼らは名を、華悪崇（カオス）と名乗る。それは 103 流の忍びにはない謎の一族。「我らの仲間になれ」と武蔵を誘いに来たのだ。その中の一人、羅沙亜（ラシャア）と名乗る男は、第三の聖剣「雷光剣」を持っていた…！

前半戦は、「華悪崇胎動篇」といったところ。「コスモ」というキーワードが出てくるのをミッドポイントとして、傭兵忍者伊達総司（だて・そうし）、「魔女の棲む山」白霊山に眠る死牙馬（シグマ）の登場、コスモの戦士を集めていくのが後半戦。小次郎と武蔵の再戦もありか？

聖剣戦争の条件がそろったところで、シーズン 2 終了。「風魔の小次郎 the movie 聖剣戦争篇」へと接続する。

(みどころ)

- ・各一族同士の忍者バトル。(原作で1ページしかない部分を、ふくらませる)
- ・今回の「壬生」つまり全体をかきまわす役割は、龍王院狂須に。武蔵との因縁ありに改変。

- ・小次郎のメインイベントは、「抜け忍」である。

忍びに戸籍はないから、姫子とは「結婚」は出来ない。「忍びと主君」という宿命を嫌い、小次郎は姫子をさらい、逃げる。

風魔総帥に次期「小太郎」(風魔の頭領は代々この名を名乗る)候補として推そうと思っていた竜魔は、小次郎の抜け忍を追う命を、総帥より受ける。そして、霧風も、劉鵬も、小龍も。「抜け忍は死」それが忍びの掟だ。

だが、風魔の里に銀の瞳を持つ謎の一族(華悪崇)が襲い、総帥は殺されてしまう。竜魔たちは、「裏切り者」小次郎を殺すべきか、風魔に戻して体勢を立て直すべきか苦悩する。

総帥になれば、北条家から「風間」の姓を与えられ、人間の扱いを受けるといふ。小次郎は、「風間小太郎」という人間になるべきか。

胎動する華悪崇、聖剣を得て忍び界の覇権を得ようとする各一族、近づく聖剣戦争を背景に、竜魔と小次郎は、自らの決断をしなくてはならない。

(登場人物)

風魔一族

小次郎 with 風林火山

竜魔

劉鵬

霧風

小龍

(小桃)

風魔総帥 NEW 風魔一族の総帥。人間名は風間小太郎。総帥だけが、北条家から姓を与えられ、人間の戸籍を得る。

雷炎 NEW 雷と炎を操る。けんかつ早い性格。必殺技は風魔朱雷炎。

十蔵 NEW いぶし銀的ポジション。手裏剣の達人。

死紋 NEW クールで何を考えているかわからない。マインドコントロールを使う。

飛騨一族 NEW

龍王院狂須 NEW 飛龍覇皇剣の使い手。武蔵と同じ師に飛龍の剣を習った。が、武蔵が師を殺したと誤解し、彼を憎んでいる。

北条家、柳生家

北条姫子 今年で卒業。総長への道を歩むとき、つまり「小次郎との約束の時」が来たところから物語は始まる。

柳生蘭子 アメリカ北条家の世話をしていたが、本格的に白鳳学院に帰還。

雑賀衆 NEW

雑賀孫一 NEW 鉄砲の名人の一族。反風魔派。

九龍一族 NEW

九龍鉄拐 NEW 鉄拐李の技、即ち蹴り技を使う。九頭龍脚が必殺技。反風魔派だったが、小次郎との出会いで運命は変わってゆく。

鬼面党 NEW

鬼坊主 NEW 策士。魔矢の接触を受ける。

夜叉一族の残党

陽炎 氷漬けの陽炎を魔矢が介抱し、一命を取りとめていた。
が、脳細胞が死滅しており、時折記憶や人格に狂いが出る、半狂人となっている。体も不自由で、魔矢が車椅子を押さないと何も出来ない。

魔矢 夜叉姫の遺志を継ぎ、夜叉再興を目論む。陽炎を次期夜叉王にするつもりだ。

華悪崇 NEW

銀の瞳をもち、銀の衣装に包まれた、謎のサイキック集団。竜魔の死鏡剣すら逃れる力を持つ。忍び 103 流派の中になく、謎の一族。

紫苑（シオン） NEW 風魔の里を襲う。夜叉姫暗殺も彼の手による。

羅沙亜（ラシャア） NEW with 雷光剣

第三の聖剣「雷光剣」を持ち、武蔵に接触。

涅紹（ネロ） NEW 華悪崇の本拠地で、「皇帝」の勅命を受ける。

華悪崇皇帝 NEW

全ての元凶。

十聖剣をそろえることが、聖剣戦争をせずして勝利する条件だった。

その他

飛鳥武蔵 with 黄金剣

失踪後、郊外の教会の世話になり、神に仕えるための修行をしていた。そこに住むシスター（18）は盲目であり、盲目だからこそ彼の本質をいち早く悟っていた。武蔵も絵理奈のことを唯一忘れさせる彼女を、悪くは思っていなかった。が、華悪崇一族が彼女を惨殺。再び武蔵は友の剣を取り、血ぬられた闘いの渦に巻き込まれていく。

黄金剣は、感情の爆発に応じて力を発揮する聖剣。武蔵は風林火山にサイキックを断たれたが、黄金剣の力を使えば、失われたサイキックと同等の力を使えることに気づく。のちに、それが武蔵の弱点となる。

伊達総司 with 紅蓮剣

傭兵忍者として、飛鳥武蔵と並び立つ腕の噂の男。
第四の聖剣、紅蓮剣の所有者。

死牙馬 白霊山に眠る謎の男。

白霊山の魔女 死牙馬を守る精霊。小次郎に襲いかかり、聖剣の所有者であると確認。

(以下、迷ってます)

1 「学園忍者ドラマ」の枠を、どこまで守るか？

下手すると、「林や岩場だけの」ドラマになってしまう（滝とか寺とか教会とか、風魔の里とか白鳳学院とか、あるけど）。実写版夜叉篇のよかった「部活の裏の死合い」という感じを出せるだろうか？ 学ランを守るためにも、風魔は白鳳に所属し、飛騨はその隣の高校に所属し…などというルールを設けるか？ とすると、一般人と関わる必要が？

華悪崇は謎の組織だとしても、ドラマのベースになるところは、やはり白鳳学院や柳生屋敷であるべきか？ 華悪崇の目的は忍びの流派の統一及び壊滅であるが、それと一般人との絡みを、上手く考えないと、林の中だけの時代劇になってしまう。（原作だと龍王院狂須の死の場面あたりはずっと自然の中だったし、それだらけになってしまう…）

2 食卓コントや、小次郎のお調子者加減は、どこまで継続？

原作ではずっとシビアな話になってしまったけど、ドラマ版ではどうあるべきか？ 最初と最後はギャグ風味は足せるが、中盤をどうするかは悩みどころ。「世界の破滅」という大きなテーマだが、ずっと深刻にしてしまっただけでは、あのドラマの続編にはならないし、あの小次郎の魅力を描けないのではないかな。個人的に悩む。

3 死紋を出すべきか？

風魔反乱篇をやる、という想定で、すでに出そうとしている。出さずに、複雑にしないほうがよいか。夢魔、雷蔵（さらに炎雷、魔仁なども）を出すべきか？ これは今後のビジネスの大きさでも決まるだろう。

4 一巻で出た「各地に散っている兄や姉」を生かし、「姉」＝くノ一を出すべきか？

シャイナさんやマリンさんみたいなキャラになるだろうが。竜魔の許嫁とか？ たとえば狂須と絡ませるとかも出来るけど？

5 聖剣戦争を the movie で出来ない場合

本編内で聖剣戦争をやる必要があるとき、予算配分はどうすべきか。

6 竜魔と蘭子のラブロマンスの配分

一切ない（原作準拠）、ほんのりやる（ファンとしては見たい、しかしやり過ぎて欲しくない）、ガッツリやる（許嫁などを絡める、しかし霧風ファンのことを考える必要はある）、の選択肢あり。

竜魔は己の立場の苦悩を、はじめて他人に漏らす、それが蘭子で…という流れは容易につくれるが。

7 小次郎と姫子

個人的には、一線を越えたい。小次郎の闘う一番の理由になる。聖剣戦争への参加の理由にもなる。キス程度だと、ちょっと弱いかもなあ。これも全体のビジネス規模で変わって来るけど。

8 夜叉一族の残党、というアイデア

複雑になるなら、不要。ただ個人的に…

9 小次郎には、実兄小太郎がいる、というアイデア

おおもとは「どうして小次郎なの？ 次男なの？」という単純な問いからの思いつきだ。本来の次期総帥候補、小太郎がいたが、勘当されている、という設定を思いついていた。行方不明の放蕩の「真の」長兄が帰って来る、という話は面白い物語母型だが、これも話の複雑さを増すので、全体とのバランスで足し引きする要素ではある。

10 伊達、死牙馬の登場タイミング

前半で出して、彼らに感情移入するようなエピソードを最初から入れ込んでいくべきか？ その場合の（オリジナルな）物語の動機は。伊達は「柳生暗殺帖」でも「使者」の役目しか果たしておらず、彼の過去や動機や背負う物語性は描かれていない。死牙馬と白霊山の魔女の話を作成して感情移入させるべきか？ それともただの追加戦士的な立場にするか？ 各一族のオリジナルキャラとの配分をどうするか？

11 風魔流水剣の会得

個人的には入れたいアイデア。連載時言及されたが、コミックス版には削られたもの。この究極奥義の会得が鍵だと匂わせていた。当然、総帥からの一子相伝の技だろう。風林火山のブースト（マグネットコーティング的な）に使える。原作では、脱皮してたけど。

12 聖剣戦争の行方

一番悩みどころ。「双方消滅」をどう落とすかだなあ。柳生暗殺帖では、コスモがどうやって生還したかが描かれてないので、それこみで創作するべきか？ 流石に越権行為か？

「神」を出さずに神の意志を示す方法論もあるので、ビジュアル上の神（菩薩？）は出さない方向で考えたいが。

つまり、どこで「完結」するかを決めておかないと、物語が創作しきれない感じがする。個人的には、原作では、風魔反乱篇のあと、まだ続けられれば続けたのではないか、と思うからだ。

(テーマ)

小次郎が「人間」になること。「新しい忍び」の最終結論をつけること。つまり、人間と忍びとは何か？が、再びテーマとなる。

聖剣戦争というより大きな人類滅亡の枠組みが、それをどちらでもよい、とするぐらいの危機として迫る。もし世界を救えて、再び平和な世界の姫子の前に現れるとき、小次郎はどのような顔で姫子の前に立つべきかを、決めておかなければならないだろう。